

初代会長に小野定氏

東京診断士会 地位向上をめざす が設立総会

東京コンクリート診断士の設立総会が11月11日、東京都千代田区麹町の日本コンクリート工学会会議室で開かれ、初代会長に小野定C&Rコンサルタント社長を選出した。会員は104人。東京近辺に勤務または居住するコンクリート診断士を対象としているが、「関東地区に限らず」診断士会がない地域の人も希望があれば入会を認めたい。その点で、柔軟な対応を考えている」（小野氏）としている。



小野定会長

設立総会では、診断士会の先駆けで最も活発な活動を展開している福井県コンクリート診断士の石川裕夏会長があいさつ。「東京に診断士会ができることで、全国的にも（診断士会設立の動きが）加速する。今後、東京（診断士会）の皆さんと連携を取っていききたい」と述べた。

引き続き東京コンクリート診断士会の会長選出、会則などについて審議。会長に設立発起人でもある小野氏を選出した。

小野氏は「東京近辺はコンクリート診断士が多い。そこでインターネットを使って呼びかけを行った。今年4月に八百数十

十人に声をかけ、11月11日現在で104人の賛同を得て会が発足した」と振り返ったうえで、「何のためにこの会をつくるのか。参加された皆さんの目的がそれぞれ違うと思う。私自身としては診断士がお互いに交流できる場につながって欲しい。同時に、診断士の社会的認知度が今ひとつ低いだけに、技術士に相当する（コンクリート）メンテナンズの資格になるよう活動していきたいと考えている」と述べた。

この後、会則（案）について審議。事務局は東京都国分寺市のC&Rコンサルタント内に設置。会の目的を「コンクリート診断士制度の趣旨に基づき、診断士業務の進歩、改善、診断士の技術力向上、社会的地位の向上、診断士の品位の保持、コンクリート工学会の診断士制度発展等コ

る」、運営は「原則としてインターネットで行う」などとしている。ただ、一部（案）について再検討すべき点との意見が出たため、これを暫定（案）とし、年内にも会員の承諾を得て、来年1月にも会則を発効すること

とを決めた。また、今年度の活動計画として①ホームページの作成②活動中のコンクリート診断士会との交流③技術セミナーの開催などを行う。

設立総会后、名古屋大学大学院の中村光教授を講師に招き、「中部地区における第三者評価機構による技術評価・支援運動と今後の見通し」と題して講演した。